

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271402192		
法人名	社会福祉法人 杏寿会		
事業所名	グループホームあけぼの		
所在地	長崎県南島原市布津町乙674-3		
自己評価作成日	令和4年8月1日	評価結果市町村受理日	令和4年9月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和4年9月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本年度は新型コロナウイルス感染症の状況が少し緩和された為、一時的にガラス越し面会からアクリル板での対面面会を再開した時には入所者様やご家族様は大変喜ばれていました。遠方に住まれているご家族様にオンライン面会やホームでの様子を写真や動画に撮り、送る事でご家族様にはとても喜ばれています。又、大きな行事は自粛となっている為、桜の花見やツツジの花見は車内から眺めるドライブに行きました。毎日、ホーム内の長い廊下を使い、歩行訓練や手すりを使った起立訓練で筋力低下を予防しています。敷地内にはビワの木や金柑が植えてあり、入所者と一緒にちぎって食べて頂いたり、玄関前には池があり、金魚観賞を楽しまれています。外出が減った為、施設内での行事や余暇活動に力を入れています。夏祭りや運動会、クリスマス会等を実施したり、毎日のレクリエーションでは職員がいろいろなゲーム等を考えて楽しんで頂いています。又、毎日のバイタルチェックにてちょっとした体調の変化に気づけるように、体調が悪い時には、嘱託医への相談、受診を行い、早めにご家族様への報告も行っています。入所者様と一緒に毎日、笑顔のたえないグループホーム作りを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍により面会を制限しているが、家族や馴染みの友人と入居者が面会ができるよう、通用口のドアを擦りガラスから透明ガラスへ変更し、互いの顔が見えるように改修するなど、入居者や家族の希望を汲み取りながら運営している。遠方の家族にはLINE(アプリ)を使用して日頃の様子を動画で送り、入居者の元気な姿を伝えることで家族の安心感に繋がっている。近隣への散歩や庭先の桜やつつじを眺めたり、ビワや金柑の実を採って食べたり、池の金魚への餌やりなど、コロナ禍による外出制限はあるもののできる範囲で支援している。市より避難所としての指定を受けており、災害時には近隣住民に開放するなど災害時の受け入れ拠点として役割を果たしている。理念である「明るく、楽しく、自分らしく、笑顔のあるホーム・・・だから幸せ」を踏まえ、ホーム内での素麺流しや運動会、夏祭りなど、入居者の笑顔のために様々な工夫を凝らしながら入居者への支援を実践しているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に報連相をする事により職員の方向性を統一している	朝礼後にその日のリーダーがホームの理念を読み上げ、職員全員で唱和し、理念を共有すると共に、一人ひとりが理念を踏まえて入居者に対応できるよう管理者を中心に取り組んでいる。	理念に基づいた介護を実践することが重要であることから、あらためて、理念に込められた思いや意味を確認して全職員へ理念の周知を図ると共に、理念の実践状況を確認したり暗唱できるよう取り組むなど、理念を意識した質の高いケアの実践に繋げていくことを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年に引き続きコロナウイルス感染防止の為、地域でのイベント等に参加できる機会が少なかったが、町民清掃に参加し地域の方との交流ができた	新型コロナウイルス感染防止のため、地域住民との交流は減少している。尚、ホームは自治会に加入し、回覧板の回覧や地域の清掃活動に入居者と職員が参加するなど、地域の一員として活動し地域交流を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町の文化展へ作品を出展し、利用者の方が制作した作品を通じて地域の方々へ認知症への理解を深めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今までに2回の運営推進会議を行い、コロナウイルス感染拡大の為2回は会議を中止しており、ご家族には資料送付し色々な意見を回答して頂いている	運営推進会議は、新型コロナウイルス感染防止のため、保険者、市議会議員、家族代表へ文書を送付し開催している。施設長や管理者はホームの行事の様子や、運営の取り組みを運営推進会議の委員に詳細に伝え意見を受けている。出された意見は円滑に対応されており、委員からも高い評価を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	報告書や更新書類などを支所へ提出する際、市政などの情報交換を職員としている	運営推進会議の委員に広域圏介護保険課の担当者がおり、ホームの情報を伝え、助言等を得ている。また、入居者の介護保険更新申請など各種手続きの際に管理者が行政窓口に出向き、行政担当者へホームの現状日頃の取り組みについて伝え、協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	DVD研修を行ったり、身体拘束委員を設けている	ホームに身体拘束廃止対策委員会を設置し、2か月毎に同委員会を開催して身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。職員にはDVDやインターネット動画を活用した学習の機会を設けている。職員は身体拘束禁止の対象となる具体的な行為について認識できている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に身体拘束委員を中心に日頃の介助などが身体拘束や虐待に繋がっていないか話し合いの会議をひらいている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度に関する研修を受け、対象者に万全な支援ができるように勤めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約書や重要注意事項の説明を行い、ご理解、納得して頂いており、疑問等があらわれる際は随時説明をおこなっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設けたり、ご家族の面会時や電話又利用料の支払いの際にご家族の方に意見や要望を聞いたりしている	玄関に意見箱を設置しているが、家族などからの意見の投書はない。そのため、入家族が利用料の支払いや、入居者との面会に訪れた際、職員が直接家族と対話し、意見や要望を聞き取るようにしている。また、来所できない方には電話やLINEを通じて意見や要望を聴き、運営に活かすよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見は常に聞ける状況であり、定期的に職員会議をひらいたり、話し合いの場を設けている	毎朝の申し送り時や、日頃の業務の中で、職員は主任や管理者に運営に関する意見や提案を行っている。管理者は職員から挙げた意見や要望は施設長に伝え、必要に応じて運営に反映し、より良い運営を行うために業務改善に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の能力に合った指導をしており、職員からの意見を大切にその都度業務改善を見直し働きやすい環境整備をおこなっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	技術向上、知識を広める為のDVD研修、リモート研修等に参加してもらったり、要望がある際にも研修に参加してもらっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームにて入所者がコロナウイルスに感染された際、応援要請にて職員1名を派遣しそこでの情報交換や経験を基にサービス向上につとめている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所される前に面会をおこなっており、その際に入所に関して不安なことや、今後どのように生活を送って行きたいかを聞き取り、入所後の環境変化に柔軟に対応できるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に施設見学などして頂いたり、困っておられる事や今後どのように生活を送って頂きたいか等を聞いたり		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他職種とのチームカンファレンスをおこない、ご本人の希望をふまえて最適なサービス内容を検討している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活歴を基にグループホームでの役割を持って頂き、生きがいを持って生活して頂ける支援をおこなっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	窓越し面会やテレビ電話、手紙などでご家族との絆が途切れないような支援をしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係があらわれる方とは電話や窓越し面会をして頂いたり、馴染みの場所は写真や会話に取り入れて関係が途切れないように支援をしている	入居者が入居前に通っていた馴染みの美容室へ散髪に出かけたり、昔暮らしていた地域の友人と電話で会話を楽しめるよう取り組むなど、入居者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係を継続できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲が良い方同士は友好関係が途切れないように、トラブルの際は職員が間に入ったり、コミュニケーションが苦手な方には話題提供し利用者同士の共通点を探し、楽しく明るい空間を作っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も相談にのったり、ご本人の様子を伺い出来る限りの支援をしている。可能なサービスの情報提供をおこなっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中でなるべくご本人の希望に添えるようにしており、困難な場合はご家族へ相談や協力を依頼している	入居者一人ひとりから昔の暮らしぶりや、趣味、嗜好などを聴き取り、本人の希望や意向に沿った生活が送れるよう支援している。また、その方が意向を表現することが困難な場合には、家族から入居者の希望や意向を聞き取り、本人本位の支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に生活歴や既往歴、入院歴など聞き、ご家族や病院、施設から情報収集につとめている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子や状態を処遇記録に残したり、特変時には全ての職員が把握できるように連絡帳に書いて情報共有を徹底している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時にはご本人、ご家族、介護職員と話し合いをおこない作成をしている。日々の生活の中から課題を見つけ、ご家族へは電話や面会時に希望や説明を聞いたり、主治医にも受診時に相談している	事前に家族へ電話で入居者の様子を伝えて意見や要望を聞き、職員間で本人本位の暮らしについて意見を出し合い介護計画を作成している。医学的ケアが必要な入居者には、主治医にも相談しながら介護計画にも反映し取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	常にケアプランを基本にしたケアを実践し、必要に応じプランを見直している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用可能なサービスは十分活用し、ご本人やご家族からの要望に柔軟に対応できるように支援している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染拡大の為、地域のイベントには参加出来なかったが、町内主催の文化展の作品制作をする事により地域資源を活用できた		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からの掛かりつけ医療機関へ受診し、一つの医療機関に頼らず、ご家族へも相談し病状に応じ専門の医療機関への受診も出来るだけおこなっている	本人や家族の意向を尊重し、以前からのかかりつけ医を継続して受診できるよう支援している。かかりつけ医と連携し、必要に応じて専門医療機関に繋げるなど適切な医療を受けられるよう支援し家族の安心に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に週に1回来荘して頂き、的確な処置や相談をおこなったり、アドバイスや指導を頂き、場合によっては医療機関を受診したり、訪問看護師ノートに処置の方法を記録し統一したケアに取り組んでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の医療連携室と連絡を取り合い、入退院を潤滑におこなっており、退院後も相談したりアドバイスを頂いている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今年度は3名の方の看取りをおこない、コロナ禍で医療機関では会う事も出来ないがグループホームでは最期も側に居てあげられたのでご家族も大変喜んでおられた	ホームに「施設での看取りに関する指針」を整備し、入居時に説明すると共に、医師により終末期と診断された時にあらためて家族に説明し、十分な理解と同意を得た上で支援している。職員も指針の内容を理解しており、チームでの支援に取り組んでいる。ホームで看取りを実施した後は家族から感謝の声が届いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には冷静に対応できるように急変時マニュアルに沿って対応できるようにしており、いつでも先生へ連絡できるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	最近では自然災害が増えてきており新人職員もいざという時に対応できる様に年に3回避難訓練(火災、地震想定)をおこなっている。停電時の発電機の使用法の指導やハザードマップを基に避難経路の把握をしている。	消防計画書や防災マニュアルを整備し、火災や災害時にも入居者が安全に避難できるよう取り組んでいる。地域の消防団にホームの見取り図や、避難訓練の案内を届けており、日頃より協力体制を築いている。市より避難所として指定を受けており、台風などの災害時には近隣住民にも開放するなど災害時の受け入れ拠点として役割を果たしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬う気持ちを持って接し、入居者一人一人に寄り添った話し方をするように心がけている	職員による入居者への声掛けは方言を使用しながらも丁寧語を基本として接している。職員は入居者一人一人に対して人生の先輩として敬い、尊厳や誇りのある生活が営めるよう努めている。トイレへの誘導時には耳元で個別に声掛けを行うなど、プライバシーの配慮も徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の自己決定を優先しており、意思表示が難しい方には思いが出せるような働きかけをおこなっている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の希望に可能な限りそって、一日をどのように過ごしたいかを聞き、ペースに合わせた支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	必要な物があられる際は職員やご家族が購入したり、髪の毛を染めたい方には職員が支援をおこなっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	彼岸の中日にはおはぎ作りを手伝って頂き、昔を思い出して職員に教えて頂いている	夏の素麺流し、彼岸のおはぎ作り、正月の餅つきなど、季節に応じた食事や行事食を提供し、ホームの中に居ても季節を感じながら食事を楽しめるように支援している。できる方は下膳したり、餅を丸めたり、干し柿を作るなど職員も一緒に取り組み、残存能力を活かした支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取表を基に一人一人の栄養状態を把握し、必要な方には高カロリーのゼリーなど栄養補助食品を摂って頂いたり、アクエリアス等で確実に水分補給をおこなっている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で出来る方には歯磨きの声掛けし、義歯の方は毎日入れ歯洗浄剤に浸けて頂いたり、定期的に		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は出来るだけトイレ介助を行い、排泄の訴えが出来ない方には定時で声掛けし、夜間はオムツやポータブルトイレを使用して頂いている	オムツの使用を減らせるよう可能な限り日中はリハビリパンツを使用している。排泄チェック表を記録スペースに置き、職員が入居者の排泄パターンを常に記録できるようにしている。入居者一人ひとりの排泄のタイミングに合わせて、職員が声掛けし、トイレ誘導を行いながら、トイレでの排泄自立に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、牛乳やヤクルト、ヨーグルト等を提供したり、歩行訓練や起立訓練に参加して頂いたり、レクレーションに参加し身体を動かし便秘予防や改善につとめている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最低週に2~3回は入浴介助を行い、なるべく自力で洗える範囲は洗って頂き、希望があらわれる場合も可能な限り入浴介助をおこなっている	入浴は週2回を基本として支援している。入居者の状態や一人ひとりの入浴の希望に応じて、いつでも入浴できるよう備えている。寝たきり状態の方には、ケリーパッドを使用して洗髪を行い、体は清拭にて対応し、心身共に爽快感を得られるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望があれば居室以外でも休めるように和室に座椅子や布団を用意しておりそこで休んで頂いたり、パーテーションを使いプライベート空間をもうけている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しく薬を処方された時や変更があった際は連絡帳に記載し職員全員が把握できるようにしており、薬情は処遇記録に挟んでいる		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人やご家族から生活歴を聞き、それを基に希望を聞きながら楽しんで生活できるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染拡大の為、最低限の外出しかできないが、施設の駐車場に植えてある桜やツツジが咲くので、そこで見物や記念撮影をして楽しんで頂いている	新型コロナウイルス感染防止のため、以前のような買い物や墓参り、入居者の家に宿泊するなどはできていない。尚、ホームの周辺を散歩したり、敷地内にある桜やツツジの花を眺めるなどのほか、庭先の池にいる金魚の餌やり、敷地内にあるピロや金柑を採って食べる、ドライブで山にツツじや紅葉を見に出かけるなど、感染対策を講じながら入居者の気分転換を図り、できる範囲で外出支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で金銭管理されている方もいるが、概ね施設で管理をしており、必要に応じて職員が購入している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の所持や使用に関しては制限をもうけておらず、好きな時間に自由に使用して頂いており、要望があれば施設の電話を使いご家族やご友人と会話をして頂いている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昨年は施設の老朽化していた箇所の廊下の床の張替えや、大型空気清浄機を導入した。季節に合わせてフロアーへ鯉のぼりや雛人形、クリスマスツリーを設置し季節を感じて頂いている	リビングには椅子やソファ、和室には座椅子があり、入居者は好きな場所で自由に過ごしている。リビングや廊下の窓は大きく、ホームの中庭はウッドデッキで、職員の付き添いで中庭に出ることができ開放感がある作りである。壁面には5月の鯉のぼりなど、季節に応じた飾りつけが施され、入居者が季節を感じながら暮らせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いフロアーに和室やソファを設置しており、テーブルには指定席を設けず気の合う方同士が自由に座れるようにしており、一人で過ごされるのが好きな方には居室にて自由に過ごして頂いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはこれまでご自宅で使われていた物を持ち込んで頂いたり、ご家族の写真を置かれたり自由にして頂き、ご本人が快適に過ごせるようにしている	居室に備え付けの物品は、ベッド、タンス、床頭台で、入居者は入居前に使っていた、テレビ、枕、椅子、仏壇などを持ち込むことができる。また、居室には家族の写真や、手づくりの折り紙、好みの絵画を壁に飾るなど、入居者が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の残存機能を把握して、自立支援を基本に安全、安楽に生活できるような支援をこころがけている		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 B棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を毎日朝礼時に唱和し職員が再確認し、運営理念に沿ったサービス提供出来るようにつとめている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年と同様でコロナ感染の為、地域の行事やイベントに参加出来ず交流がもてなかった		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所申込に来られる方に、その人に適した必要とされるサービスをご案内している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染拡大の為、2回運営推進会議をひらき、2回は会議を中止し資料を作成しご家族へ郵送し、その資料を読んで頂き意見や要望を回答して頂きました		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市政の情報を聞いたり、悩み事などを親しくしている市議会議員さんへ相談している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を中心に可能な限り身体拘束をおこなわないような工夫を職員全体で検討している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法に関する研修を受けたり、虐待へ繋がりそうな行動を検討している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度が活用できるように研修をうけており、現在対象者がおられ制度を十分活用できるような支援をしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族や利用者の方が理解、納得されるような説明を心がけている。不安や疑問を改善出来るようにつとめている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の悩み事や困り事を聞いたり、家族の方とは電話や利用料の支払いの時などに話をする場をもうけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの運営に関する意見や提案を聞ける場をもうけている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々にあった指導をしており、職員からの提案を大切にして働きやすい環境整備につとめている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の長所を伸ばしてあげられるように心がけている。初任者研修、実務者研修をはじめ介護福祉士会の研修にも参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の施設でコロナ感染が起これば応援要請で職員1名を派遣し、そこでの体験等を活かしてサービスの質の向上をおこなっている		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人のこれまでの生活歴等を職員が理解し、少しでも早く安心した生活が出来るように心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に施設内見学や説明をおこない、ご本人やご家族の思いを聞き、少しでも要望にそえるように検討している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず必要なサービスを見極め、その後他のサービスが必要となってきたら、ご家族と検討している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	敬う気持ちを持ち、不安や悩みなどを聞いたり、利用者の人生談を聞いてアドバイスをもらったり、親密な関係を築けるようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診後や特変時には必ずご家族へ報告しており、面会制限が続いており電話やテレビ電話でご本人と会話して頂いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	交友関係が途切れないように手紙や電話などを使い支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲が良い方同士は今後も良い関係が続くような支援を行い、レクレーションなどを通じて利用者皆様に楽しんでもらっている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要があればサービス終了後も出来る限りの事は相談に乗っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の今までの生活歴をもとに、今後ここではどの様な生活を送っていきたいのかを聞きながら検討している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に生活歴や職歴をご本人やご家族から聞いている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活を処遇記録に残したり、日々の様子の中で普段との違いを見つけられるようにつとめている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に担当者会議をひらき、課題をあげケアの方向性を統一し、本人や家族の思いを聞いた上で介護計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡ノートで職員間の情報を共有し、統一したケアを実践したり、処遇記録や職員の声をもとに介護計画の見直しをしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限りご本人やご家族のニーズに対応しており、楽しく過ごして頂けるようなレクリエーションを考案し提供している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年もコロナの影響で外部からの慰問等は中止だったが、町内の文化展見学やお花見、紅葉ドライブ、初詣に行き皆さん楽しんでおられた		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	可能な限り本人の今までのかかりつけ病院へ受診しており、適切な医療を受けられるような支援をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師を週に1回来て頂き、相談したり、アドバイスを受けてたり処置の方法などを指導してもらいながら支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には連携室と連絡を取り合い、退院後施設での今後のケアのアドバイスを頂いたり、本人やご家族の意向を大切にしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時に終末期のケアを説明し、本人やご家族の現段階での意向を確認しており、その都度状態によって必要なサービス提供をおこなっている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には先生やご家族に連絡しており、職員は急変時マニュアルを閲覧できるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	災害時に備え備蓄品を確保しており荘外の倉庫にも確保してある。避難時のハザードマップをもとにした避難場所の確認、定期的に職員への発電機の使用方法の指導、年に3回の消防避難訓練(火災、地震)保存食の試食などおこなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方に適した誇りやプライバシーを損ねない声掛けや対応をしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いがしぜんと思わせるような風囲気づくりを心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望にできる限りそって、その日を過ごして頂けるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張散髪に2～3カ月に1回訪問して頂いており、必要な衣類等、希望があれば購入している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事や誕生会には手作りの料理を食べて頂いたり、利用者と一緒に準備や後片付けをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取表に記録したり、必要であれば高カロリーゼリーを提供している。脱水予防にこまめな水分補給を促している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の方は毎日、入れ歯洗浄剤を使用して頂き、本人の状態に応じた口腔ケアの支援をおこない、定期的な歯科受診をしている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄のタイミングにあわせてトイレ誘導をおこなっている。出来る限りオムツに頼らないようにしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その方にあつた消化しやすい食事形態で提供している。牛乳やヤクルト、ヨーグルト等提供し、歩行や起立訓練を行い便秘予防につとめている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	希望があれば、いつでも入浴介助をおこなっており、状態によってはリフト浴も使用し安全、安心に入浴ができる体制をとっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	要望があれば、いつでも休んで頂けるように和室にも布団を用意しており、エアコンや扇風機で温度調節したりブラインドで日差し調節もおこなっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の指示のもと必要であれば薬の調整をおこない、本人も説明を受け、注意事項や副作用についても対応できる体制をとっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な作業や生活歴をいかした役割を持って頂き、そのひとらしく生活できる環境づくりをしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	病院受診の際は可能な限りご家族も一緒に付き添って頂いている。希望に応じ買い物支援をおこなう		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は施設で管理したり、個人で管理されている方もいるが、トラブルにならないように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っておられる方はいつでも自由に家族と話して頂き、施設へ家族からの電話の際は本人へ直接代わったり、手紙のやりとりも自由にできるように制限をもうけていない		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用トイレには消臭剤、芳香剤を備え、集団生活空間では個々の嫌な空間にならないように聞き取りを行い、自室は本人や家族の好みに合わせた空間をつくっている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コミュニケーションが苦手な方には職員が間に入り、共用ソファでは気の合う方同士で座って頂いたり、その方が一番落ち着かれる居場所づくりを心がけている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	可能な限り本人が生活して来られた部屋に近づけるようにしており、ご家族には自宅で使用されていた目覚まし時計やご家族の写真、湯呑みなどを持ってきて頂いている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安心、安全に自立した生活が送れるように残存能力を活かした一人一人にあった支援をしている		